

どの子も楽しく学び、「思考・表現」する力をつける国語  
学習

～児童の学びにくさに応じた授業づくりを通して～

1. 設定の理由

- (1) 今日の課題から
- (2) 本講の学校教育目標から
- (3) 本校の実態から

2. 研究の視点

- ① 相手意識や目的意識を明確にし、単元の終末部分で、伝え合う場を設けることで、主体的に分かりやすい表現をしようとする児童が育つだろう。
- ② モデルやワークシート、手引きを使い、書き方や学習の進み方を明確にすることで、主体的に表現する児童が育つだろう。
- ③ 意図的に互いに交流する場を設けることで、友達や自分の表現の良さに気づき、主体的に書き方の工夫に役立てていく児童が育つだろう。

3. 研究内容

○授業実践 第4学年 単元名「干潟小の60周年を知らせる新聞を作ろう」

- ① 新聞づくりをする。
- ② 取材をし、読みやすく、人目を引く記事について話し合いながら、グループで1枚の新聞を作り上げる。

4. 結論

- ・ 見通しをもって言語活動に取り組み、意欲と必要感をもって活動することができた。60周年を知らせる新聞をつくるために取材をし、記事に表して紹介する言語活動は有効であったと言える。
- ・ 全ての児童が自分で取材をし、60周年に関わる事柄を調べて記事を書き、班の仲間と共に新聞を作り上げることができた、書き上がった記事は、本人・班の仲間・教師と何度も読み直し、調べた事柄の中の最も伝えたい部分が伝わっているかを考えることで思考力・表現力が向上したので、本単元の言語活動、支援の工夫・配慮は有効であった。
- ・ グループでの話し合いでは、前単元の学習が活かされ、下位の児童も班の仲間の意見を参考にしながら記事づくり等の学習に取り組むことができ、手立ては有効であった。

## 1 研究主題

どの子ども楽しく学び、「思考・表現」する力をつける国語学習

～児童の学びにくさに応じた授業づくりを通して～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

「生きる力」の育成をめざした学習指導要領において、学力の3要素として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的な学習態度」の育成が求められている。これらの力を育む手段として「言語活動の充実」が求められる。言語活動は、教育活動全体で行われていくものであるが、その基本となる言語能力を培うために、国語科の授業が果たす役割は大きいと言える。教育活動全体を通じた言語活動の充実のために、国語科でどこに重点をおいて指導したらよいか、またどのような力をつけていくことができるかを明確にしていく必要がある。そして、児童一人ひとりが楽しく学び、生きて働く言語の力をつけていくことが、「生きる力」を育むことにつながると考える。

### (2) 本校の学校教育目標から

本校は、文部科学省及び千葉県、旭市の学校教育指導の指針に則り、校訓を『拓き 輝き高め合う 干潟っ子』とし、「豊かな心で、正しく判断でき、物事をやりぬく意志をもった児童の育成」を目標に掲げている。また、指導方針の重点として「確かな学力を育む」をあげている。そこで、確かな学力を育むために本校では、学びにくさのある児童も学習に意欲的にとりくめるような国語の授業づくりにおける工夫・配慮を明らかにすることで「生きる力」を育む教育の推進を目指している。

### (3) 本校の実態から

本校の児童は、明るく活発である一方で、授業を楽しいと感じできなかつたり、授業の中で「わかった」「できた」という思いが少なく、自己肯定感の低い傾向にある児童もいる。自己肯定感の低いまま、高学年に進むと、学習に対して前向きに頑張ろうとする気持ちも薄れていく。また、友だちと良好な関係を築くことが苦手な児童もいる。

本校は、3年間国語を研究教科にしてとりくんできた。3年間の研究で本校児童には、知的発達の違いはないものの、学習に対して何らかの学びにくさを抱えている児童が多いことが判明した。そして、その学びにくさに対応した支援をユニバーサルデザインの考え方を取り入れて行ってきた。その結果、学びにくさのある児童も授業に参加し、学習意欲をもてるようになった。また、県標準学力検査でも県平均を上回ることができるようになった。しかし、「書くこと」「読むこと」の領域には若干の課題が残された。学習した文章だと読み取り方がわかり問題解決することはできるが、初めての文章や長文になると自力で読み取ることができない児童や、思いや考えはもっているが読み手にわかるように文章に表現することができない児童が多いことがわかった。

### (4) 本校の研究の経緯

本校では、平成25年度より研究教科を国語として、学びにくさを抱えている児童も楽しく授業に参加し、満足感を得られ、そこから意欲をもって学習にとりくみ、そのことが児童の学力向上につながることを目指した研究を進めてきた。(ユニバーサルデザインの考えを取り入れた国語学習、詳しくは資料参照。)

今までの研究の中で、児童の学びにくさについて、視覚にかかわる視点、聴覚にかかわる視点、運動感覚にかかわる視点の3つの視点から調べた。そして、物の見え方に支援が必要な児童、話の聞き方に支援が必要な児童、集中力が続かず、授業中に落ち着きがない児童を把握した。その上で、児童の学びにくさ、困り感に応じた授業を組み立ててきた。

平成28年度は、育成した読解力や言葉の力を支えに、児童一人ひとりが思考し豊かに表現できる言語活動を工夫し、児童が豊かに表現することができる手だてを明らかにしていくことを研究の中心に据えようとする。学習に対してつまずきを感じ、困り感を抱えている児童だけでなく、どの子も活躍できる授業づくりをめざすために、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れながら、単元を貫く言語活動を工夫し、豊かに表現する力をつけていくことを目標とした。

【ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業のポイント】

- 視覚化・・・1日・1時間の予定を掲示、モデルの提示、写真・映像での補助、色分け等で文章理解の補助、教室の前面・側面掲示を必要最低限にし、児童の集中力の持続を図る。
- 焦点化・・・単元を通して身に付けたい力を明確にし、学習内容を精選する。1時間あたりの学習内容を絞り、児童が集中してとりくめるようにする。
- 共有化・・・学習を通して分かったことや学習の成果、意見を友人と交換し合うことで、学習内容の定着や理解の深化を図る。

(5) 本学級の児童の実態(平成28年度 第4学年 男子10人 女子13人 計23人)

本学級全体に見られる「学びにくさ」として、以下の3点が挙げられる。

- ① 1年生時から毎年担任が変わってきており、学級のルールや学習のルールが定着しにくい。担任交代という環境の変化に順応しづらい児童も多い。
- ② 学習への意欲はあるが、上記の理由から基礎的な学力が身につけていない児童が多い。学習を進める際も、前学年の学習内容を振り返りながら指導する必要がある。
- ③ 口頭での指示では伝わりづらく、文字や絵で同時に説明する必要がある。

このことを踏まえ、「事実を読み手にわかりやすく伝える力」がどれくらい身についているのか、事前に調査を行った。調査は、社会科校外学習で訪れた公共施設の紹介新聞づくりと、校内施設の写真を使用して分かりやすく説明する文章づくりの2種類を行った。

半数近くの児童は、既習の「見学したことを知らせよう」の学習により、「読む相手を意識して文章を書く力」を身につけつつあるということが分かった。しかし、「相手を意識した文章」「相手にとって読みやすく分かりやすい文章」とは、どういう文章なのかを理解できていない児童もいることも分かった。また、児童は前年度までに校外学習後に、調べたことを新聞に表すという経験を積んできている。しかし、とりくみの様子から、「題名や見出しの役割」「見出しを活用する力」「記事をより分かりやすくするために写真や図を活用する力」といった、新聞記事として適切に表現するための知識や技能が身につけて

いない児童が多いということが分かった。

加えて、3年生時から見出しをつけて文章を書くという学習を行ってきたが、見出しを意識して新聞を書くということができていないということも分かった。さらに、作文とは異なる新聞の体裁への理解が不十分な児童も比較的多く、また、項目立てて文章を書くことが苦手な児童も多かったのもので、それらに対応する手立てが必要といえる。

普通の学級での様子から、「子ども新聞」に興味をもち、毎週読んでいる児童は、新聞作りの際にも見出しや奥付を書き、記事に合わせた写真を選ぶことができる傾向にある。また、毎朝のスピーチ活動『今日のニュース』で、気になる時事問題について級友に紹介するという活動を行ったが、学級全体として「いつ・どこで・だれが（何が）・何をした（どうなった）」を意識して話すことが難しかったので、記事を書く際には5 W 1 Hを意識させなければならない。

なお、グループで一つの作品を作り上げるという活動は4年生になってからは初めてのとりくみであった。互いに記事を読み合い、5 W 1 H の情報を伝えられているか、分かりづらいところはないか指摘し合うよう声かけをした。

上記の実態に応じて学級全体に対し視覚化・焦点化・共有化に配慮をして指導を行うが、本学級には個別の支援を必要とする児童も在籍している。以下の通りである。

|    |                                                                     |
|----|---------------------------------------------------------------------|
| A児 | 思考を言語化することが難しい。できないと思い込むと、活動に対して激しい拒絶反応を示す。落ち着けば静かに活動を再開できる。不安感が強い。 |
| B児 | 学習面での困難さが大きい。一人で取材をしたり記事を書き上げたりすることは難しく支援が必要。                       |
| C児 | 集中力にムラがあり、学級での学習はがんばっているが、学校外での取材活動は難しい。少年野球チームに所属。                 |

### 3 研究の視点

- ①相手意識や目的意識を明確にし、単元の終末には式典で掲示するという、学習のゴールを設けることにより、主体的に分かりやすい表現をしようとする児童が育つだろう。
- ②モデルやワークシートを用い、書き方や学習の進み方を明確にすることにより、主体的に表現する児童が育つだろう。
- ③互いに交流する場を意図的に設けることにより、友だちや自分の表現の良さに気づき、主体的に書き方の工夫に役立てていく児童が育つだろう。

※全学級共通でとりくむ、学びにくさに応じるための配慮

- ・学習の環境を整える。（ひがたスタンダードの活用）
- ・前面掲示のシンプル化（集中力の持続を阻害する要因の排除）

### 4 研究内容

#### （1）実践事例

- 1 単元名 干潟小の60周年を知らせる新聞を作ろう
- 2 主な学習材 「学級新聞を作ろう」（教育出版 ひろがる言葉 4上 P104～107）

### 3 単元目標

○ 60周年を知らせる新聞作りをすることに興味をもち、書く上で必要な事柄を進んで集め、読み手にとって分かりやすくなるよう記事の編集・作成をしようとする。

(関心・意欲・態度)

○ 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。

(書くこと)

○ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。

(書くこと)

○ 考えたことを伝えるには、適切な言葉があることに気付く。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### (2) 実践の経過と考察

| 指導計画 | 次 | 児童の学習活動（1時間あたりの学習内容の精選＝焦点化）                                             |
|------|---|-------------------------------------------------------------------------|
|      | 1 | ○ 学習のゴールを確認し、学習計画を立てる。①<br>○ 学級新聞の作り方を知る。班ごとに新聞作成のための話し合いをする。②          |
|      | 2 | ○ 取材をする。③<br>○ 取材した事柄を持ち寄り割り付けを考える。④<br>○ 記事を書く。⑤<br>○ 記事をもとに、見出しを考える。⑥ |
|      |   | 十分な取材期間を設けるため、③学習後から④までは1週間程度の期間を設けた。<br>1時間では終わらなかった。                  |
|      | 3 | ○ 他班と新聞を見せ合う。その後記念式典の会場に掲示する。⑦                                          |

#### 〈導入部〉

#### ① 創立60周年記念式典開催の周知と、校長から児童へ壁新聞作りの依頼

本校が創立60周年を迎えること、それを記念する式典を執り行うことを児童に発表し、その式典の際に掲示する壁新聞を作ってほしいという依頼を校長が児童に伝えた。その際に、以下の内容が児童に伝えられた。

- ・ 作った新聞は60周年記念式典の際に、会場に掲示される。(学習のゴール)
- ・ 式典には全校児童のほかに、保護者や地域の方も参加する。(相手意識)
- ・ 式典の1週間前までに仕上げる。(期限)

普段、なかなか話す機会のない校長からの直接の依頼とあって、児童の意欲が高まるとともに、児童の学習の目的が明確になった。また、この時に具体的な学習のゴール・相手意識・期限が定められたことにより、児童は単元を通して集中して学習にとりくむことができるようになった。

#### ② 目的意識・相手意識の明確化、学習の進め方の決定

校長からの依頼を受け、児童と以下の点について話し合った。

- A 誰に読んでもらいたいのか。(相手意識)
- B どのような内容が載っている新聞にしたいか。(取材内容の設定)
- C 記事に書くべき情報をどのように集めるか。(取材方法の決定)

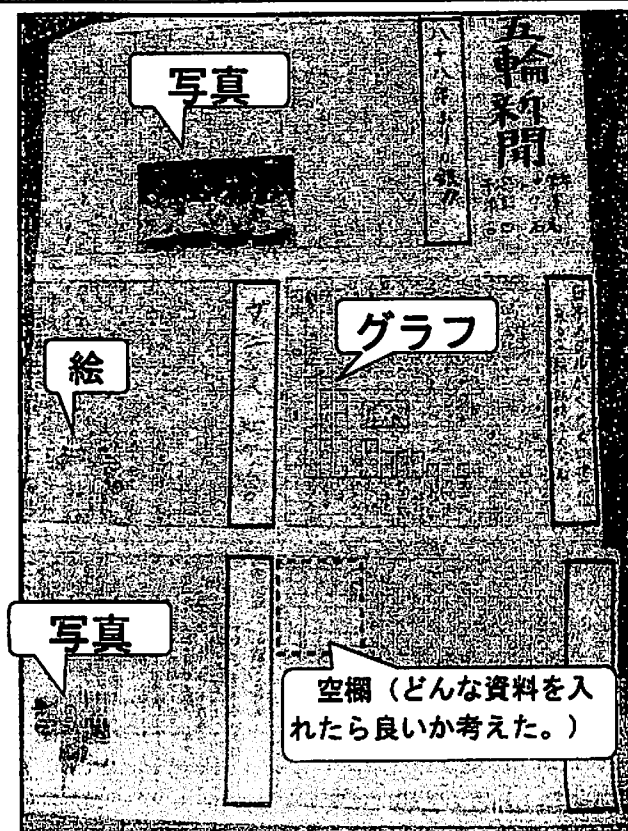
結果として、Aについては「式典に来たお客さんに読んでもらおう新聞作り」となり、Bについては「60年間のできごとをわかりやすく紹介したい。」「敷地の移転について紹介したい。」「インタビュー記事を作りたい。」などの意見があがった。また、Cについては、「図書室で資料を探す。」「校長先生の知っていることを教えてもらう。」「家族や自分の住んでいる地区に卒業生がいた場合、インタビューをする。」などの手段が考えられた。資料を各自が集め、記事にした後に、班で一枚の新聞を作成することを確認した。個別の支援を要する児童には以下の配慮を行った。(上段は支援、下段は反応。)

|    |                                                                                    |
|----|------------------------------------------------------------------------------------|
| A児 | 本人が安心感をもって接することのできる児童を同じ班にした。<br>→パニック状態になることなく、友人と励まし合いながら学習できた。                  |
| B児 | 取材や作文を好む児童と同じ班にして、共同で活動できる場を増やした。<br>→友人と共同の取材を行うことで、取材の方法を理解することができた。             |
| C児 | 本児のテーマ(「干潟小少年野球チームの歴史」)を保護者にも伝え、取材に協力してもらった。<br>→野球練習の際に監督に質問をするなど、独自性のある記事が作成できた。 |

また、段階を追って学習を進めることができるよう、計画表を用意し、掲示した。1時間毎にとりくむべき学習内容が明確になり(焦点化)、児童が安心感をもって活動することにつながった。

### ③教員の働きかけ

教員が見本の新聞を提示した。教員が作成した新聞を見ることにより、児童は具体的な完成像をイメージすることができ、今後の学習への見通しが持てるようになった。



教員見本の新聞には、「トップ記事（文章量が多い。）」、「写真（記事内容の補助）」、「絵（写真が得られなかった場合の記事内容の補助）」、「グラフ（数量の違いが分かりやすい。）」などの分かりやすく、人目を引きやすくする方法を取り入れた。その教員見本の新聞を児童の目につく場所に掲示することにより、児童が自分の記事や新聞と見本とを、見比べながら学習を進めることができた。

〈取材〉自分の知りたい事柄について、資料を集めたり、インタビューをしたりする。

「関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。」という目標達成のため、取材をする前には「自分が何について記事を書き、そのために何を調べる必要があるのか。」を明確にする必要があった。そこで、児童には班の中で相談して新聞を構成する記事内容の相談をさせ、それぞれの担当者を決定するだけでなく、どのような取材方法が最も適しているかについても、話し合わせた。「よりよい新聞を作る。」という目的のもと行うことで、必要性のある話し合いになった。自分の考えを伝え、友人の考えを聞くことで、話し合いの中で児童自身が取材方法を導き出せるようにした。さらに、それぞれの班で考えた取材方法について、他班とも伝え合い共有化することで、学級全体で様々な取材方法があることを確認できた。加えて、取材前に新聞の完成予想図（割り付け表）を作っておくことで、各自の記事の量や、記事のまとめ方の見通しを持たせた。取材方法としては以下のような手法が行われた。

ア 校内の資料を探す。

資料として保存されているアルバムの中から、写真に写る今とは異なる様子のものを見つけ出し、それをもとに調べた。

【例】

| 写真の気になった所              | 分 か っ た こ と                                                           |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 校舎や校庭の様子が全く違う。         | 児童数増加により、敷地移転をしていた。                                                   |
| 今は無い木造校舎だが、校名の看板が似ている。 | 看板の裏に掘られた日付から、現在も移転前の校舎と同じものを使っていることがわかった。                            |
| 移転直後の校舎は、今よりも小さい。      | 更なる児童数の増加により、増築した。校内の増築部分には金属板で補強が入っており、金属板のある位置はだいたい増築前の校舎と同じ大きさである。 |

イ 卒業生にインタビューをする。

学校の近隣に住む卒業生から、当時の様子を聞いた。

【例】

| 質 問                        | 回 答                                                                                                  |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| なぜ、今は遊具が少ないのか。             | 安全面を考慮して取り壊された体育山という施設があった。今の体育館の南側にあった。                                                             |
| 敷地移転について、当時の児童の様子を教えてください。 | 高学年が机を運び出した。移転前の木造校舎は平屋だったが、鉄筋コンクリートの3階建ての新校舎にとってもわくわくした。<br>(わくわくという感覚が児童には新鮮であったようだ。共感的理解にもつながった。) |
| 給食はどうしていたのか。               | 給食室で作っていた。現在は給食センターで作っているので、給食室はなくなった。                                                               |

ウ 6年生にインタビューをする。

式典で、干潟小学校の60年間の歴史について劇で紹介する予定の6年生に、取材した。

【例】

| 質 問                  | 回 答                                       |
|----------------------|-------------------------------------------|
| 木造校舎での生活の様子を教えてください。 | チャイムはまだなく、鐘を鳴らしていた。<br>60年前は、着物を着ている子もいた。 |
| どのような遊びが流行っていたのか。    | ゴム跳びやめんこ、ヒーローカードなど。                       |

エ その他の調査方法

卒業生や、6年生もわからなかったことは、さらに詳しく知っていそうな人を探したり、実際に自分で体験したりした。

【例】

| 質 問                | 調査方法と分かったこと                                                                         |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 当時の給食のメニューを知りたい。   | 給食センターの栄養士さんに質問をし、分かる限り一番古いメニューを教えていただいた。今と大きな差はないが、品数が今よりも少なく、器の素材や形、牛乳の様子が異なっている。 |
| 瓶牛乳とはどのようなものか知りたい。 | 近隣の牧場へ行き、実際に飲んでみることで、紙パックの牛乳との違い（開けづらい、重い、落としたら割れそう、等）が分かった。                        |

各自が調べることで、以下の2点が体験的に理解できた。

①知りたい情報を得るためのアプローチの仕方には、様々な方法があること。

②調べたい内容によって、最も適当な調査の仕方が異なること。

また、どうしたら自分の欲しい情報が手に入るか、より良い情報を得るためにはどうしたら良いか試行錯誤を繰り返すことで、児童の思考が深まっていく様子が見られた。

なお、A児とB児は班の友人と誘い合って取材をすることで、自分の知りたい情報だけでなく、取材の仕方について理解することができた。C児は所属チームの監督に取材に行ったという話を保護者から聞くことができた。

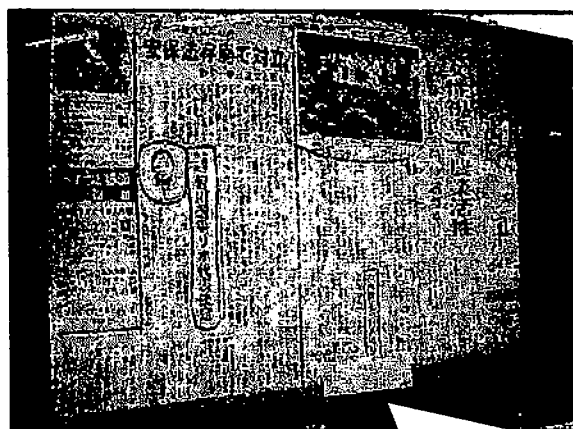
〈編集・構成・記述〉各自が調べたことをもとに、記事を書き、一枚の新聞を作り上げた。

調査前に班で話し合っていた完成予想図（レイアウト）をもとに、それぞれの記事を書いた。その際、トップ記事となる記事がより目を引くにはどうしたらよいか、読者により多くの情報が届く“分かりやすい新聞、記事”にするためにはどのような工夫が考えられるかを話し合う時間を設けた。

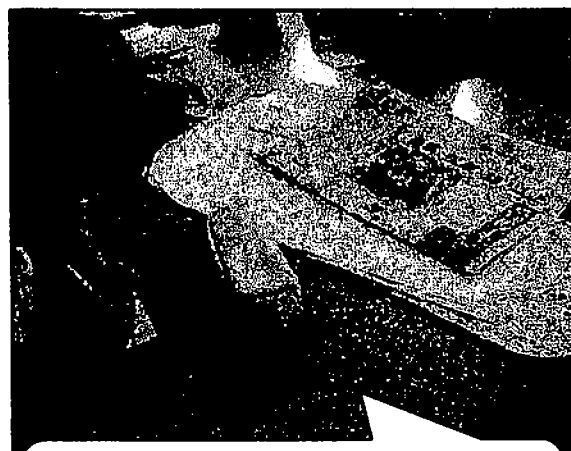
その際、事前の実態調査から分かった「作文とは異なる、見出し等の新聞の体裁（＝読者を引き付けるための工夫）を意識して書くことが難しい。」に対応するため、本物の新聞から、「題名」「見出し（大見出し・小見出し）」「写真の配置の仕方」「写真に対する説明」などの実際の使い方を調べた。班ごとに行い、終了後に他班と見合うことで、より良い新聞のレイアウトについての意識や、記事の書き方が理解できた。また、その新聞を常に手元に置き、自分たちの新聞と比較することで、新聞記事やレイアウトに対する思考の深まりが見られた。（視覚化）

取材したメモを、記事に書き換えるにあたり、再度構成メモを作成した。膨大な情報の中から、自分の記事に必要な情報を抜き出すことで、情報の整理ができた。また、情報の取捨選択をすることが、記事の構成についての思考・判断の場となった。

記事作成の間は毎時間意見交換をする時間を設けたので、自分たちのゴールとしている新聞の姿を確認しながら作業を



項目ごとに共通の色を決めて印をつけたので、新聞ごとのレイアウトの違いがよく分かった。（視覚化の支援）写真のように実物投影機で全体の共有化を図ることもできた。



色分けされた新聞を手元に置き、参考にしながら作業をする児童。（視覚化）写真は班のメンバーとの意見交換のために付箋を書いている所。（共有化）

進めることができた。

進捗状況の確認も兼ねていたので、班の中にサポートが必要な児童がいた場合は、上位の児童がアイデアを出したり、共に作業を進めたりする姿も見られた。(共有化)

項目立てた文章を書くことが苦手な児童に対する手立てとして、5 W 1 H について書かれたヒントカードを用意した。カードの順に沿って情報を並べていけば新聞記事が書けることを確認した。(焦点化)

個別の支援を要する A 児と B 児については、教員が共に記事の構成を考え、必要な情報を当てはめて記事を書いた。その後 A 児は自分で仕上げたいと考え、別の紙に清書するなど、大変意欲的な姿を見せた。

他班の制作の様子を観察する時間を毎時間必ず設けた。他班の良い所を観察することで、



学習の終わりに行う意見交換の様子。次時以降も互いの意見を振り返ることが出来るよう、必ずメモ(付箋)に書いた。(共有化)

自分たちの新聞の「読みやすさ」「人目の引きやすさ」について振り返り、加筆修正をすることで、より読者を引きつける新聞作り(=相手意識)ができるようにした。

交流をした結果、支援の必要な児童からは、「〇〇さんの記事がきれいだから真似してみたい。」(A 児)、「野球の記事は俺だけだった。皆が褒めてくれた。嬉しい。がんばる。」(C 児)といった反応が見られた。学級全体の学習意欲の持続に大変役立つとともに、表現力の向上にも結びついた。(共有化)

#### 〈展示〉60周年記念式典での展示と来校者の反応

60周年式典の当日には、児童の作った新聞が式場となる体育館の壁に掲示された。式典には児童と保護者だけでなく、地域の方々も招いていたので、多くの方に新聞を見ていただくことができた。

##### 【来校者の反応の抜粋・( )の中はコメントを下された方の立場】

- ・よくまとめられていた。(保護者)
- ・何度か質問をされ、答えたが、このような新聞になっていたので驚いた。がんばったと思う。(C 児の保護者)
- ・懐かしい写真を何枚も見ることができて、良かった。(地域の方)
- ・昔のことをよく調べてあって感心した。子どもの頃のことを思い出して、懐かしい気持ちになった。(地域の方)
- ・昔の干潟小について、今の子どもたちが調べてくれたことが嬉しい。(地域の方)

##### 【来校者の反応を受けての児童の感想】

- ・(来場者に見てもらおうというプレッシャーからパニック状態になりそうになり)何をしたらよいか分からなくなってしまう時もあったが、班の友だちが助けてくれたから、

最後まで書くことが出来た。(A児)

- ・ 班の友人と一緒に活動をしてくれたので、どうやって調べるのか、どうやって文章を書くのかがよく分かった。(B児)
- ・ 新聞が完成して良かった。自分にしか書けない記事が書けたので、調べることや書くことが、だんだん面白くなってきた。(C児)
- ・ 知らないことを調べるのが楽しかった。自分の学校のことなのに、知らないことが多いということが分かった。新しいことが分かるとおもしろい。
- ・ 自分たちが新聞を書いたことで、地域の方に喜んでもらうことができ、自分もうれしい。こんなに喜んでもらえるとは思わなかった。またやりたい。
- ・ 班で見やすくなるように話し合った記事についてのコメントをもらった。話し合いが成功したということだと思う。新聞の書き方がよく分かった。
- ・ 「自分も60年の歴史の中の一員なんだな。」と思った。インタビューに答えてくれた6年生の劇では、もっと色々なことが分かった。分かりやすく、さすが6年生だと思った。干潟小にはまだまだ歴史を重ねてほしい。

## 5 研究の成果と課題

### 〈成果〉

- ・ 児童は見通しをもって言語活動にとりくみ、意欲をもち、必要性を感じながら活動をするので、言語活動は有効であった。
- ・ 教師見本や色分けされた新聞を参考に新聞作りを進めることができた。(視覚化)
- ・ グループでの話し合いでは、前単元「報告文を書こう」での学習が活かされ、下位の児童も班の仲間の意見を参考にしながら記事作り等の学習にとりくむことができた。(共有化)
- ・ 全ての児童が自分で取材をし、60周年に関わる事柄を調べて記事を書き、班の仲間と共に新聞を作り上げることができた。書き上がった記事は、本人・班の仲間・教員と何度も読み直し、また、他班の記事との読み比べも行った。調べた事柄の中の最も伝えたい部分が伝わっているかを考えることで思考力・表現力が向上したので、本単元の言語活動、支援の工夫・配慮は有効であった。

### 〈課題〉

- ・ 取材した事柄が記事に表しやすくなるよう、5 W 1 H の項目のメモを使用したのが、取材した資料やインタビューした相手がいつでもこの項目に沿って情報を提供してくれる訳ではなかったので、かえって児童の混乱を招いてしまった。あらかじめ項目に分かれたメモを用意するのではなく、児童が資料を集め、その中から自分に必要な情報を見つけ出すという、ポートフォリオ方式が本学級の児童には合っていた。
- ・ 見出し作りの際に例として示す文章が短かったため、児童には見出しをどのように付けたら良いかを示す良い資料とはならなかった。提示する資料の改善が必要である。
- ・ 進んで取材活動を行う様子が見られたが、取材によって得た情報量には個人差があった。情報を他班と共有する場はなかったので、そのような場があっても良いように感じた。但し、特ダネである内容もあるため、情報共有の度合いは検討する必要がある。

# 資料編

## 資料編目次

- ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた本校の研究・・・・・・・・・・ 1 ページ
- 干潟スタンダードについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 ページ
- 第4学年の実践について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 ページ
  - 指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 ページ
  - 事前の実態調査に使用したワークシート・・・・・・・・・・ 11 ページ
  - 割り付け表とその使用例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12 ページ
  - 割り付け表をもとに完成した児童の新・・・・・・・・・・ 13 ページ
  - 取材メモ例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 ページ
  - 絵や写真を使用した記事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15 ページ
  - グラフを使用した記事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16 ページ
  - 個別の支援を要する児童の記事・・・・・・・・・・・・・・・・ 17 ページ
  - 完成した新聞例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18 ページ
  - 60周年式典での掲示の様子・・・・・・・・・・・・・・・・ 19 ページ

【ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた本校の研究】

学びにくさを抱える児童も、適切な配慮を行うことで、他の児童と同様に楽しく学習に取り組めるのではないか。

※学びにくさ・・・いろいろなことに気を取られて授業に集中できない。

教師がどこを説明しているかがわからない。

何をしてよいかわからない。 など

国語を学習するに当たっての学びにくさ・・・読めない・書けない

※学びにくさに応じるために

・学習の環境を整える。 ひがたスタンダードの活用

前面掲示のシンプル化

・全文視写 音読（ルビ）

※下位児童に限らず、上位児童もいきいきと活動できる支援を工夫する。

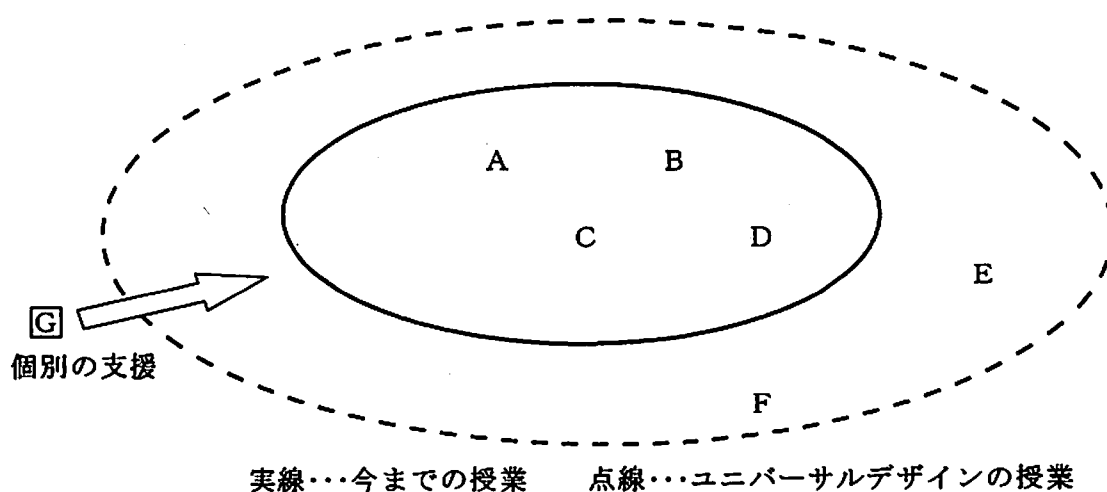
5 研究の内容

(1) 理論研修

- ・児童一人一人の学びにくさに関する調査の仕方について
- ・効果的な言語活動の設定について
- ・児童の学びにくさに応じた国語指導のあり方について
- ・国語の教科の特性やねらいについて
- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた国語科の授業について

授業のユニバーサルデザインの考え方

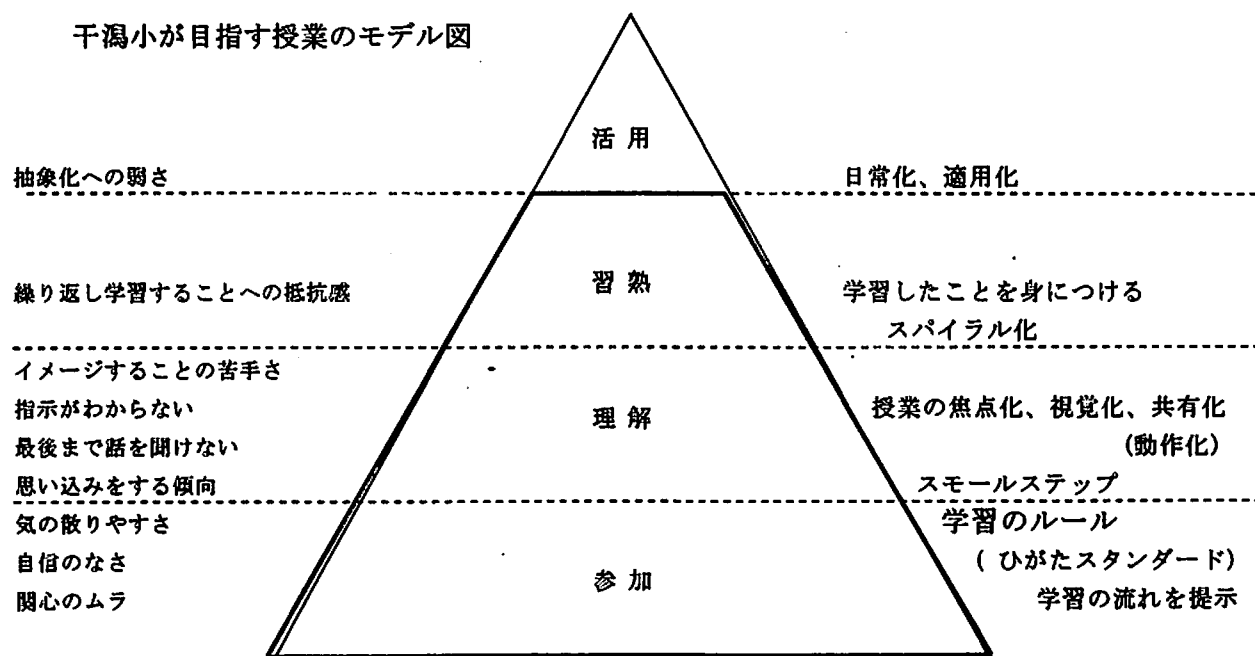
(学びにくさのある児童もない児童も学習に参加でき、「わかる・できる」を実感できる授業)



※今まで個別支援をしていたEさん、Fさんも学習に参加できるように授業をデザインする。

Gさんに対しては個別の支援をして、授業に参加できるようにする。

千潟小が目指す授業のモデル図



※説明文授業のユニバーサルデザイン

桂聖・小貫著参考

## (2) 実践研究

- ・国語科の年間指導計画の見直しと系統性の確認
- ・各学年で実践する言語活動について（作品として残せるようなものを考える。）
- ・本校としての国語用語の精選と系統性（27年度に済み）
- ・授業実践による、仮説の検証

## (3) 楽しく学ぶための言語活動の推進

- ・進んで読書に取り組むことのできる環境整備  
各学年の発達段階に応じた推薦図書を児童に知らせる。  
たくさん本を読んでいる児童を表彰する。（読書賞）  
図書室前の廊下に本を読めるコーナーを作る。  
図書館司書と協力して、図書室を充実させる。  
図書館司書による読み聞かせの実施
- ・本の森だより（図書新聞）の発行
- ・チャレンジタイム（国語）の活用
- ・全教科で「思考し、表現する」を意識した学習

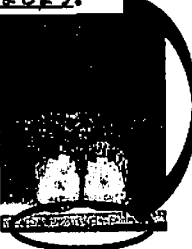
- ・チャレンジタイムの見直し（朝 8:05～8:20）

| 曜日 | 学習内容                   |
|----|------------------------|
| 月  | 読書                     |
| 火  | 国語チャレンジ（聞く・話すスキル、詩の音読） |
| 水  | 読み聞かせ（図書館司書来校日）        |
| 木  | 国語チャレンジ（漢字テスト）         |
| 金  | 算数チャレンジ（千潟ドリル、100マス計算） |

# ひがたスタンダード(1・2・3年)

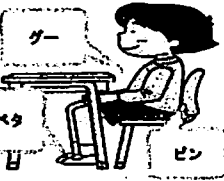
旭市立千潟小学校 平成28年 4月改訂

|                                                                                                                                         |                                                                                                                                       |                                                                               |                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| <b>べんきょうのしかた</b><br><b>よいしせい</b><br>ゲー、ペタ<br>ビン、サッ<br> | <b>はしきり・おわり</b><br>◇せんせいをみて、<br>ごうれいをかけましょう。                                                                                          | <b>ノートのかきかた</b><br>◇したじきをしきましょう。<br>◇ていねいに、さいごまでかきましょう。                       | <b>かたづけ</b><br>◇どうぐをかたづけ、つぎのがく<br>しゅうのじゅんびをしましょう。         |
|                                                                                                                                         | <b>えんぴつのもちかた</b><br>◇にほんゆびで<br>はさむように<br>もちましょう。<br> | <b>はなしかた</b><br>◇さいごまではっきりと、はなし<br>ましょう。「〇〇〇です。」<br>◇きこえるこえのおおきさで<br>はなしましょう。 | <b>ききかた</b><br>◇はなしているひとをみな<br>がらききましょう。<br>◇さいごまでききましょう。 |

|                                                                                                                                                     |                                                                                                         |                                                                                                                         |                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>どうぐ</b><br><b>くつばこ</b><br>◇つまさきをおくにして、<br>かかとをそろえ<br>ましょう。<br> | べんきょうにかんけいのないものは、<br>もってこないようにしましょう。                                                                    | <b>ロッカー・つくえのゆか</b><br>◇すぐにどうぐがだせるよう<br>せりりせいとんをしましょう。                                                                   | <b>ふでばこのゆか</b><br>◇けずったえんぴつ 6ほん<br>◇あかあおえんぴつ<br>◇けしゴム・せんひき<br>◇ネームペン 1ほん                                                             |
|                                                                                                                                                     | <b>せいかつの<br/>やくそく</b><br><b>あいさつ・<br/>ことばづかい</b><br>◇ていねいなことばでは<br>なしましょう。<br>◇じぶんからげんきよく<br>あいさつしましょう。 | <b>じかん</b><br>◇8じどうこうをまもりましょう。<br>(7じ15ふんよりまえには、きません。)<br>◇チャイムをまもって、せいかつしまし<br>ょう。<br>◇たんしゅくのひは、3じまでいで<br>べんきょうをしましょう。 | <b>きょうしゅく</b><br>◇かっぱうぎをきてじゅんびをしまし<br>ょう。<br>◇ランヂクロスのじゅんびをしまし<br>ょう。<br>◇たべたあとは、はみがきをしまし<br>ょう。<br>◇12じ55ふんから、そとにでるよう<br>にしまし<br>ょう。 |
|                                                                                                                                                     | <b>そうじ</b><br>◇しろぼうしを<br>かぶってそうじを<br>しましょう。                                                             |                                                                                                                         |                                                                                                                                      |

# ひがたスタンダード(4・5・6年)

旭市立千潟小学校 平成28年 4月改訂

|                                                                                                                                                         |                                                                                                                                    |                                                                                        |                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>じょうぎょう たいど<br/>授業の態度</b><br><b>きょう よい姿勢</b><br>ゲー<br>ペタ<br>ビン<br> | <b>授業の始め・おわり</b><br>◇先生に注目して、<br>あいさつしましょう。                                                                                        | <b>ノートの読み方</b><br>◇下じきをいいて書きましょう。<br>◇ていねいに、最後まで記入しまし<br>ょう。                           | <b>授業の終わりの<br/>かたづけ</b><br>使ったものは片付け、<br>次の学習の準備をする。                               |
|                                                                                                                                                         | <b>鉛筆の持ち方</b><br>◇親指と人差し指ではさ<br>むように持ちましょう。<br> | <b>発言の仕方・話し方</b><br>◇最後まではっきりと、適切な言葉づ<br>かいで話しましょう。「〇〇〇です。」<br>◇場に応じた声の大きさを<br>話しましょう。 | <b>聞くときの方</b><br>◇話している人を見ながら、最後ま<br>で聞きましょう。<br>◇自分の考えと比べたり、うなずい<br>たりしながら聞きましょう。 |

|                                                                                                                                                                 |                                                                  |                                                                                                        |                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>がくしゅう どうぐ<br/>学習の道具</b><br><b>くつばこ</b><br>◇つま先をおくに向け、か<br>かとをそろえましょう。<br> | 学習に関係の無い物は、持っ<br>てこないようにしましょう。                                   | <b>ロッカー・机の準備</b><br>◇使いやすいように、整理整頓を<br>しましょう。                                                          | <b>基本の約束</b><br><b>あいさつ・言葉づかい</b><br>◇時と相手を考え、ていねい<br>な言葉で話しましょう。<br>◇お客様や先生には、自分か<br>らあいさつをしましょう。                        |
|                                                                                                                                                                 | <b>筆箱の準備</b><br>◇けずったえんぴつ 6本<br>◇赤青えんぴつ<br>◇消しゴム・定規<br>◇ネームペン 1本 | <b>時間を守る</b><br>◇8時登校を守りましょう。<br>(早く登校しすぎない、7時15分)<br>◇下校時刻を守りましょう。<br>◇短縮日課の日は、15時までは、自宅で学習<br>しましょう。 | <b>服装</b><br>◇当番は、かっぱうぎを着ましょう。<br>◇机の上にランヂクロスを準備しまし<br>ょう。<br>◇給食後は、歯みがきをしまし<br>ょう。<br>◇給食後12時55分から、外に出るよう<br>にしまし<br>ょう。 |
|                                                                                                                                                                 | <b>そうじ</b><br>◇上着をめぐ、紅白帽子(白)をかぶりま<br>しょう。                        |                                                                                                        |                                                                                                                           |

- 1 単元名 干潟小の60周年を知らせる新聞を作ろう
- 2 主な学習材 「学級新聞を作ろう」 教育出版 ひろがる言葉 上巻 P104～107
- 3 総時数と単元開始時期 7時間扱い 平成28年9月下旬から指導開始

## 4 単元について

## (1) 単元観

本単元は、学習指導要領「B書くこと」(1)ア「関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べること。」「ウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」に関連して位置づけた単元である。

4年生では、書こうとする事柄の中心を明確にし、伝えたいことを正確に書き表すということを目標に、書く学習を展開する。

児童は自分の体験を報告する文章を書くという学習の導入として、3年生の時に自分の体験を項目立てたり、見出しをつけたりして文章に表すと分かりやすくなるということを『見学したことを知らせよう』で学習した。また、前単元『見学したことを報告しよう』では、報告文を書く際に、事実や調べた事柄を正確に表し、内容によって見出しや項目分けをするとより分かりやすい文章になるということを学習をしてきている。

本単元では、それらの学習で身につけた、「報告する文章を書く」という能力を活用して、新聞を作成する。今回は、グループで相談し合い、一つの新聞を作り上げるという活動を取り入れる。その際に、見出しを使って項目を分けたり、写真を使って説明したりするなどの工夫も取り入れる。また、既習学習と異なり、今回は個々の児童が報告文を書くのみならず、友人たちと話し合い、読む相手にとっての分かりやすさを意識しながら新聞記事の編集をしていくことが大切となる単元である。伝えたいことを表現するために、「いつ・どこで・だれが(何が)・何をした(どうした)」などの要素を落とさずに文を書く力や、グループの伝えたいものを表現するという目標のために話し合う力が身につく単元である。

さらに、調査した事柄が伝わりやすくなるよう、レイアウトを工夫してグループで新聞を書くことは、5年生の『しょうかいポスターを作ろう』の学習につながっていく。

## (2) 児童の実態

写真に合った文章を書く調査 (男子10人、女子12人、計22人) (7月12日22人実施)

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| ○「階段」：全校に向けて注意を呼びかける文を書いてください。 |     |
| ・場所の名前を挙げ、注意して欲しいこととその理由を記述    | 3人  |
| ・場所の名前を挙げ、注意して欲しいことを記述         | 12人 |
| ・注意して欲しいことのみ記述                 | 4人  |
| ・呼びかける文になっていない。                | 3人  |
| ○「傘立て」：新一年生に使い方を説明する文を書いてください。 |     |
| ・物の名前を挙げ、使い方や気を付けることを記述        | 4人  |
| ・物の名前を挙げ、使い方か気を付けることのどちらかを記述   | 3人  |
| ・使い方か気を付けることのみを記述              | 8人  |
| ・物の名前のみ記述                      | 1人  |
| ・説明する文になっていない。                 | 6人  |

校外学習での出来事を新聞に表す調査

(男子 10 人、女子 13 人 計 23 人) (7 月 3 日 22 人実施)

|                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 今までに新聞作りをしたことがある。(教科は問わない。)      |      |
| ・ある                              | 22 人 |
| ・ない                              | 0 人  |
| 題名を正しい場所に行っている。                  |      |
| ・正しい場所に「〇〇新聞」と書いている。             | 6 人  |
| ・正しい場所に作文の題名のような書き方をしている。        | 14 人 |
| ・書いている。                          | 2 人  |
| 発行人の名前を正しい場所に行っている。              |      |
| ・書いている。                          | 16 人 |
| ・正しい場所ではないが書いている。                | 1 人  |
| ・書いている。                          | 5 人  |
| 発行日を正しい場所に行っている。                 |      |
| ・書いている。                          | 13 人 |
| ・書いている。                          | 9 人  |
| 記事に合った見出しをつけている。                 |      |
| ・つけている。                          | 6 人  |
| ・つけ忘れている記事がある。                   | 1 人  |
| ・つけていない。                         | 15 人 |
| 記事の内容に合った写真を選ぶことができる。            |      |
| ・選んでいる。                          | 18 人 |
| ・選んでいない。                         | 4 人  |
| 写真に写っている事物について説明している。            |      |
| ・適切な説明ができる。                      | 12 人 |
| ・説明をしていない写真もある。                  | 1 人  |
| ・説明をしていない。                       | 9 人  |
| 取材メモ例(全員共通)をもとに、適切な見出しを選ぶことができる。 |      |
| ・正当                              | 11 人 |
| ・誤答                              | 11 人 |

この調査により、半数近くの児童は、既習の「見学したことを知らせよう」の学習により、「読む相手を意識して文章を書く力」を身につけつつあるということが分かった。しかし、「相手を意識した文章」「相手にとって読みやすく分かりやすい文章」とは、どういう文章なのかがまだ理解できていない児童もいることも分かった。また、児童は今までに社会科校外学習等の学習後に、調べたことを新聞に表すという経験を積んできている。その学習の様子から、「題名や見出しの役割」「見出しを活用する力」「記事をより分かりやすくするために写真や図を活用する力」といった、新聞記事として適切に表現するための知識や技能は身につけていない児童が多いということが分かっている。

加えて、3年生時から見出しをつけて文章を書くという学習を行っているが、見出しを意識して新聞を書くということができていないということも分かった。さらに、作文とは異なる新聞の体裁への理解が不十分の児童も少なくはなく、項目立てて文章を書くことが苦手な児童も多かったため、それらに対応する手立てが必要である。

また、普段の学級での様子から、「子ども新聞」に興味をもち、毎週読んでいる児童は、新聞作りの際にも見出しや奥付を書き、記事に合わせた写真を選ぶことができる傾向があった。また、本学級では、6月から毎朝のスピーチ活動『今日のニュース』で、気になる時事問題について学級の皆に紹介するという活動を行っている。けれども学級全体として「いつ・どこで・だれが(何が)・何を(どうなった)」を意識して話すことはまだ難しいので、記事を書く際には5W1Hを意識させたい。

なお、グループで一つの作品を作り上げるという活動は今年度に入ってから初めての取り組みである。互いに記事を読み合い、5W1Hの情報を伝えられているか、分かり

づらいところは無いかな指摘し合えるよう指導をする必要がある。

### (3) 指導観

本単元では、「干潟小の 60 周年をお知らせするための新聞を作ろう」という課題を設定し、相手に分かりやすくなるように、調べたことや体験した事柄をグループで話し合っ編集し、記事を書き、新聞を完成させるということを目指としている。この課題に向かって学習材『学級新聞を作ろう』を参考に、新聞作りを進めていく。そこで、本単元のねらいと児童の実態を踏まえ、次の点に留意して指導していく。

第一に、単元を通してのめあてを明確にし、目的意識を高めて学習に取り組ませることで、意欲と必要感をもって言語活動を行わせる。本単元の言語活動として「班で話し合いながら記事の内容を考え、新聞を作る」ことを設定した。本校は今年度、創立 60 周年を迎える。多くの児童は、創立 60 周年を祝いたいという気持ちを抱いている。また、既習の「報告文を書く」という学習で、伝わりやすさを意識した文章に興味をもち、社会科の校外学習新聞の記事にも学習したことを活かそうとしている様子が見られた。そこで、60 周年を祝いたいという児童の気持ちを活かし、また、相手に伝えるための文章を書く能力の向上を図るため、「60 周年を知らせる新聞作り」を設定した。個人で書く報告文と違い、新聞作りはグループで話し合い、意見を出し合う事が必要となる。テーマに沿って、誰にでも分かりやすい新聞を作るためには、どのようにしたらよいか話し合うことで、児童はより一層読み手を意識しながら書こうという意欲を持つことが期待できる。第一次の導入では、教師作成の新聞を紹介し、言語活動のイメージをつかみ、自分たちも「干潟小の 60 周年を知らせる新聞」を作り、式典に会場したお客さんに読んでもらいたいという思いをもつことができるようにする。このとき、主体的に学習できるよう、何のために作り（目的意識：60 周年を知らせるため。）誰に読んでもらうのか（相手意識：60 周年式典に来たお客さん）を明確にする。そして第二次では、グループの友人と話し合いながら新聞の編集をし、読む人にとって分かりやすい報告文形式の文になっていることを確認しながら活動を進める。その際、他のグループの工夫の良い点に気づき、自分たちの新聞に反映させられるよう、他班の児童と交流し合いながら、各班の新聞の質の向上を図る。

第二に、どの児童も生き生きと言語活動に取り組めるよう、個々の実態を踏まえた支援の仕方を工夫する。記事の中心となる伝えたいことがぶれないよう、取材メモを用意する。正確な記事を書くためには、取材メモの充実が必要となるので、全ての児童がメモへの抵抗感無く取り組めるよう、今までの学習の中で使ってきた物と形態を揃える。そして、取材から記事作成、見出し付けまでの作業の中で通して活用する等、二段階のメモを用意する。取材活動に取り組むのは初めてなので、一問一答形式のカードも選べるようにする。それでも一人でメモを作ることが難しい児童には、教師が個別に対応する。尚、メモには 5 W 1 H と関連づけた欄を設け、「読み手に事実を正確に伝える」という新聞の特性を児童が意識しながら活動できるようにする。また、新聞の記事を書く際にもメモ同様、今までの学習でも使用してきた作文用紙を用いることで、児童が「記事を書くこと」に集中できるようにする。メモから記事に表すことが難しい児童には、『例文カード』を用意し、例文をもとに記事が書けるようにする。対話によって文章化できるよう個別支援も行う。加えて、本学級の児童個々の様子を鑑みると、集中力の持続する時間には大きな差がある。そこで、全員が同じように意欲を保つことができるよう、授業の構成を考える必要がある。児童の目的意識や意欲を持続させるために、授業を焦点化し、一時間毎の学習活動を明確にし、シンプルな狙いのもと学習に取り組めるよう、指導計画を立てる。さらに、上位の児童に対しては、新聞は文章だけではなく、写真やグラフ・表なども使い、読み手に情報を伝えるものであることを意識させていきたい。写真を活用した方が伝わりやすい記事や、グラフ・表に表した方が良い資料がある場合はそれらを使うとよいことに気付いて活用できる力をつけていきたい。

## 5 単元の見目標

○ 60 周年を知らせる新聞作りをするにに興味をもち、書く上で必要な事柄を進んで

集め、読み手にとって分かりやすくなるよう記事の編集・作成しようとする。

(関心・意欲・態度)

○関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。(書くこと)

○書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。(書くこと)

○考えたことを伝えるには、適切な言葉があることに気付く。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 6 単元の評価規準

| 国語への<br>関心・意欲・態度                                                               | 書く能力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 言語についての<br>知識・理解・技能                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 60周年を知らせる新聞作りをすることに興味をもち、進んで書く上で必要な事柄を集め、読み手にとって分かりやすくなるよう記事の編集・作成をしようとしている。 | <p>1 学級新聞で伝えたい内容を話し合い、編集方針やそれにふさわしい題名を決めている。</p> <p>2 割り付けをもとに記事を書くために必要な情報取材し、写真や図などを集めている。</p> <p>3 学級新聞の記事として取り上げたい内容を出し合い、取り上げる記事や割り付けを考えている。</p> <p>4 記事を読み返し、間違いを正したり、より正確な表現に書き直したりしている。</p> <p>5 一番伝えたいことが伝わるような見出しやリード文を付けるなどの工夫をしながら記事を書いている。</p> <p>6 書いた新聞を読みあって、事実を正しく伝えているか、興味をひかれた記事はどれか、意見を出し合っている。</p> | <p>1 考えたことを伝えるには、適切な言葉があることに気付いている。</p> <p>2 文字の大きさや配列に注意して学級新聞の見出しや本文を書いている。</p> |

## 7 指導計画(7時間扱い)

| 次   | 児童の学習活動                                                     | 指導者の働きかけ                                                                                                       | 主な評価規準と方法                           |
|-----|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 第1次 | <p>(学習の見通しを持つ)</p> <p>○学習のゴールを確認する。</p> <p>○学習計画を立てる。 ①</p> | <p>・干潟小が60周年であることを校長先生から伝えてもらい、式典で掲示する新聞作りを依頼されることで、学習への意欲をもたせる。</p> <p>・教師が作成した新聞を示すことで、ゴールまでの見通しをもつとともに、</p> | <p>関-1(観察・発表)</p> <p>書-1(観察・発表)</p> |

|     |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                           |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>○学級新聞の作り方を知る。</p> <p>○グループに分かれ、どのような新聞を作るか話し合う。 ②</p>                                                                                                                                    | <p>活動への関心をもてるようにする。</p> <p>・「割り付け」「トップ記事」「リード文」などの新聞作りに関わる用語を確認する。</p>                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                           |
| 第2次 | <p>〈書こうとする事を中心にし、調べたり記事を書いたりする。〉</p> <p>○記事に書くことを決め、取材をし、取材メモを作る。 ③</p> <p>○取材した事柄を持ち寄り、割り付けを考える。 ④</p> <p>○効果的な写真や図を入れて、わかりやすい文章で記事を書く。 ⑤</p> <p>○書いた記事をもとに、読み手の興味を引くような見出しを考える。 ⑥(本時)</p> | <p>・60周年を伝えるために、どのような記事を書いたら良いか考えさせる。</p> <p>・取材については、国語の時間だけでなく、総合や家庭学習で調べた事柄も活用するよう伝える。</p> <p>・他のグループの考えを参考に、より良い新聞作りができるよう、互いの考えを伝え合わせる。</p> <p>・取材した事柄を相手に分かりやすく伝えられるよう、報告文の形で記事を書かせる。</p> <p>・記事をより伝わりやすくするための写真や図・グラフを選ぶよう助言する。</p> <p>・記事の中心となる、自分の最も伝えたいことが表現できるようにする。</p> <p>・全体のレイアウトを考えながら記事構成させる。</p> | <p>書－2 (取材メモ)</p> <p>関－1 (観察)</p> <p>書－3 (割り付けメモ)</p> <p>書－4 (記事)</p> <p>言－1 (記事)</p> <p>書－5 (見出し・発表)</p> <p>言－2 (新聞)</p> |
| 第3次 | <p>〈互いに新聞を読み合い、交流する。〉</p> <p>○完成した新聞を読み合い、工夫されている点を考えながら交流する。 ⑦</p>                                                                                                                         | <p>・完成した記事を模造紙に貼り、新聞として完成させる。</p> <p>・他のグループの工夫した箇所を探しながら読めるようにする。</p>                                                                                                                                                                                                                                             | <p>書－6 (観察)</p>                                                                                                           |

## 8 本時の指導 (6 / 7)

### (1) 目標

- ・一番伝えたいことが伝わるような見出しやリード文を付けるなどの工夫をしながら記事を書くことができる。 (書くこと)
- ・文字の大きさや配列に注意して学級新聞の見出しや本文を書いている。 (言語についての知識・理解・技能)

## (2) 仮説との関連

言語活動を吟味して、最後に作品として残るように単元に位置づければ、児童が学習のゴールに向かう意欲を持続させることができ、繰り返し読んだり書いたりする活動に取り組むことで、思考・表現する力が育つだろう。

本時では、自分が書いた新聞記事に対して見出しを考える。記事の内容をより伝わりやすくするための言葉を選び見出しを書くということは、自分の記事が自分の伝えたい事柄と沿っているか振り返り、改めて読み直す作業を経ることで可能となる。そこで児童には、自分の書いた記事と取材メモを見比べながら、自分の伝えたいことが最も読み手に伝わるであろう見出しを書く作業を通して、相手に伝わるための表現について思考を深めていく事が期待される。さらに、見出しをつけた後に、同じグループの友人と読み合うことで、その言葉が本当に相手に伝わりやすいのか、或いは改善を要するのか気付き、よりの確な表現を求めながら新聞作りを進めていくことができると考える。

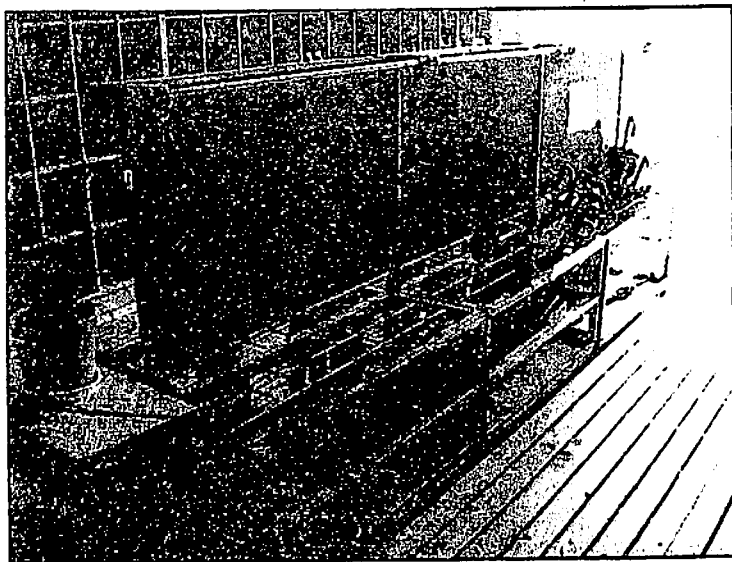
## (3) 展開

| 時配 | 学習活動と内容                                                                                                                                         | 教師の支援と評価◇(評価方法)                                                                                                                                                                                                                                                                              | 資料                              |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 3  | 1 本時の学習活動を確認する。                                                                                                                                 | ・ 前時までに書いた新聞記事に合う見出しを書くことで、より分かりやすい記事になることを確認する。                                                                                                                                                                                                                                             |                                 |
|    | 記事の中心になる事柄を考えて見出しをつけ、紙面を完成させよう。                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                 |
| 10 | 2 見出しのつけ方を全体で確認する。                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような見出しがあったら読む人に興味をもってもらえるか、意見を出し合えるよう、見出しのない記事を示す。</li> <li>・ 見出しをつける際に、記事の中心となる事柄に沿うと良いことに気付かせる。</li> <li>・ 見出しを書く際には、「記事内容の要約」、「感情を伝える」、「呼びかけ」などの方法があることを確認する。</li> <li>・ 児童が本時の学習のゴールを想像しやすいように、「記事内容の要約」、「感情を伝える」、「呼びかけ」の見出しの例を示す。</li> </ul> | 記事例<br>見出しカード(3枚)<br><br>見出し掲示板 |
| 10 | 3 自分の書いた記事の中心を考え、見出しをつける。<br><br>○記事内容の要約<br>「干潟小学校、開校」<br>「新しい校しゃができたよ」<br>「〇〇さんにインタビュー」<br><br>○感情を伝える<br>「びっくり!! 干潟小の引っこし」<br>「昔は〇〇がいたなんて!!」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見出しを書くことで、読み手は記事内容に興味をもてることに気付かせる。</li> <li>・ 「記事内容の要約」、「感情を伝える」、「呼びかけ」のどれにも当てはまらない場合があることも確認し、自分の一番伝えたいことが伝わる方法を選ばせる。</li> <li>・ 見出しが決まったら、記事内容と合っているか確認するために、何度も読み返すよう助言する。</li> <li>・ 見出しの確認も終わった児童に</li> </ul>                                  |                                 |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                 |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p>○呼びかけ<br/>「知っていますか？干潟小の歴史」<br/>「考えてみよう、戦争と干潟地区」</p> <p>○その他</p>                                                                                                                                                                                   | <p>は、読み手の興味を引くリード文について考えるよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しが書けない児童には、取材メモを振り返らせ、一番伝えたいことは何だったのかを確認させる。</li> <li>◇自分の一番伝えたいことが伝わるような見出しやリード文を付けるなどの工夫をしながら記事を書いているか。<br/>(見出し・観察)</li> </ul> |
| 10 | <p>4 見出しを含めた記事を音読し、中心となる事柄と見出しの整合性について話し合う。<br/>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容と良く合っている。</li> <li>・もっと短い言葉で表した方がよい。</li> <li>・感嘆符等をつけると分かりやすい。</li> </ul> <div data-bbox="241 981 624 1140" data-label="Diagram"> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの人にとって分かりやすい見出しになるよう、グループで意見を伝え合う場を作る。</li> <li>・グループの友人間で、記事との整合性があるかどうかについて意見を伝え合わせる。</li> <li>・意見を聞いて気付いたことを見出しに反映させても良いことを伝える。</li> </ul>                       |
| 10 | <p>5 紙面を完成させる。</p>                                                                                                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レイアウト表をもとに、記事をラシヤ紙の上に並べるよう伝える。</li> <li>・レイアウト予定からの変更や改善ができるよう、マスキングテープで仮止めをさせる。</li> <li>◇文字の大きさや配列に注意して学級新聞の見出しや本文を書いているか。<br/>(新聞・観察)</li> </ul>                     |
| 2  | <p>6 本時の活動をふり返り、次時の予告をする。</p>                                                                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は完成した新聞を、他班と読み合うことを伝え、児童の意欲を持続させる。</li> </ul>                                                                                                                         |

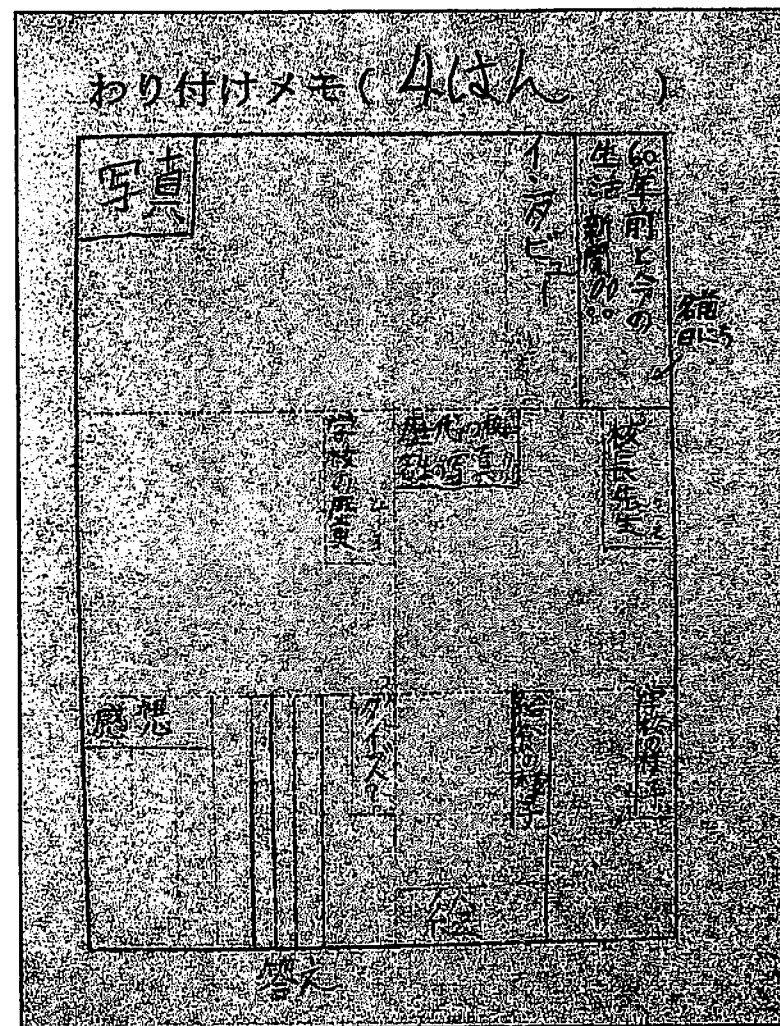
レイアウト表  
ラシヤ紙

A high-contrast, black and white photograph of a staircase. The stairs are on the right, leading upwards, with a dark, textured wall on the left. The image is heavily grainy and has a high-contrast, almost abstract quality.

[illegible]

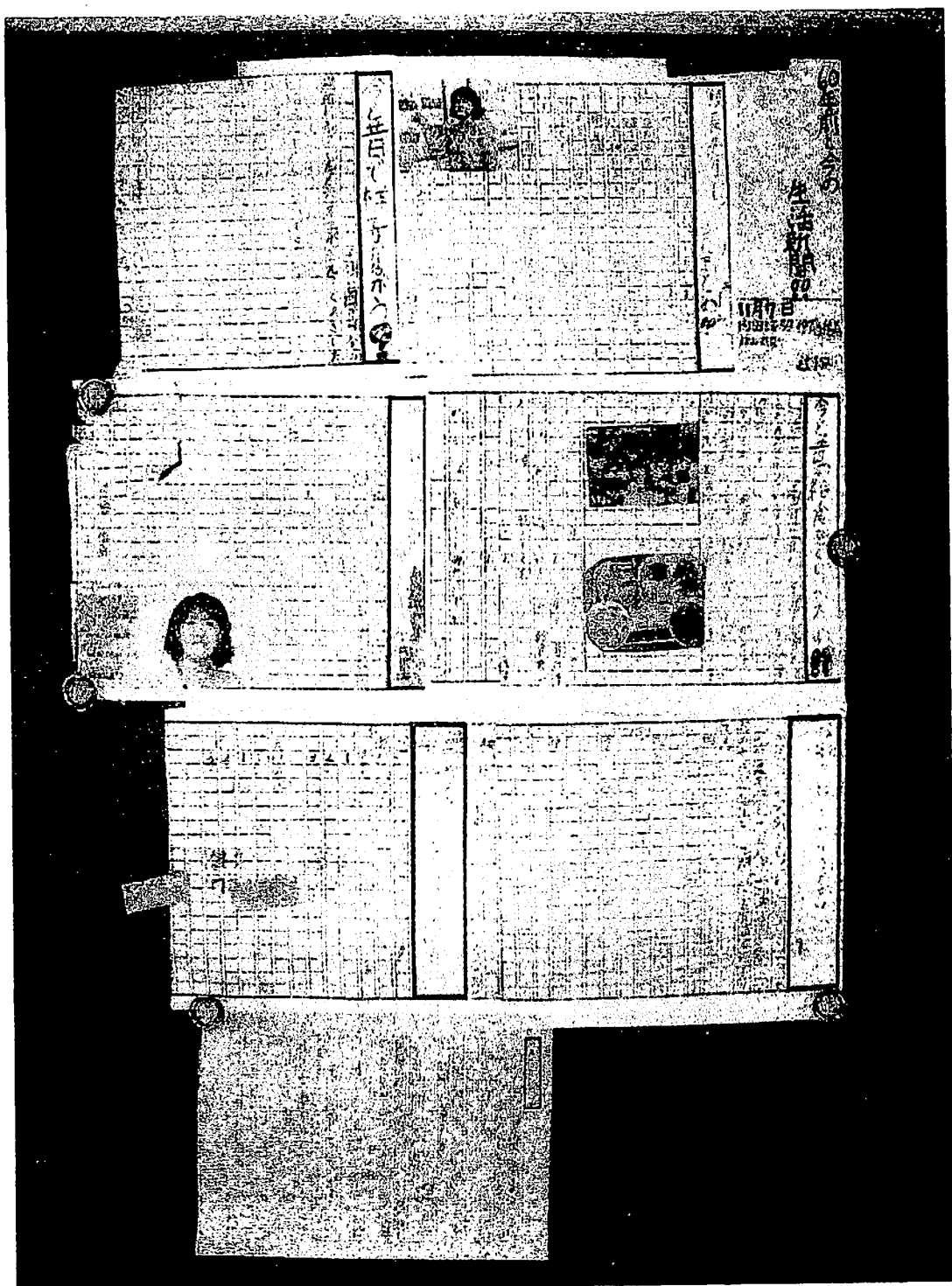
|  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|

わり付けメモ(

[illegible]

それぞれの児童が担当する記事の場所と、記事の量の目安について話し合いながら作成した。

【割り付け表を基に完成した新聞】



実際に取材をし、記事を作成してみると、話し合った通りにはいかない部分も多かった。(記事の文章量の増減や、写真資料の有無など。)

その都度、班の仲間と相談を重ね、変更をしていった。

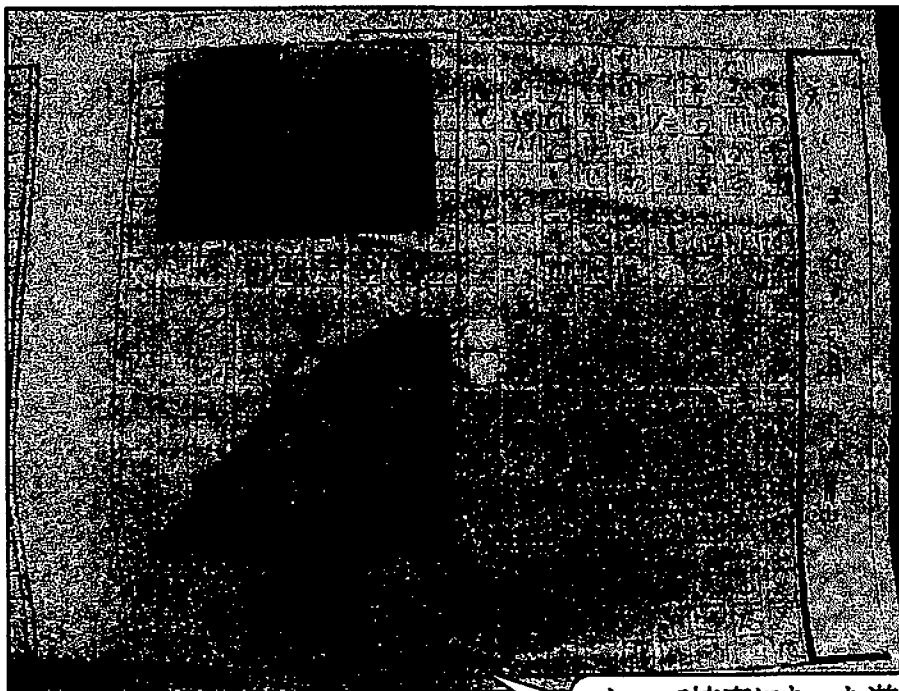
【児童が使用した取材メモの例】

The image shows two pages of a handwritten interview memo form. The form is divided into two main sections, each with a header row and several columns for notes. The handwriting is in Japanese and appears to be from a child. The form is filled with handwritten text, including names, dates, and descriptions of events.

| 名前    | 性別 | 年齢 | 職業 | 住所  | 電話番号 | 備考 |
|-------|----|----|----|-----|------|----|
| 山田太郎  | 男  | 12 | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田次郎  | 男  | 11 | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田三郎  | 男  | 10 | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田四郎  | 男  | 9  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田五郎  | 男  | 8  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田六郎  | 男  | 7  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田七郎  | 男  | 6  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田八郎  | 男  | 5  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田九郎  | 男  | 4  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田十郎  | 男  | 3  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田十一郎 | 男  | 2  | 学生 | 東京都 |      |    |
| 山田十二郎 | 男  | 1  | 学生 | 東京都 |      |    |

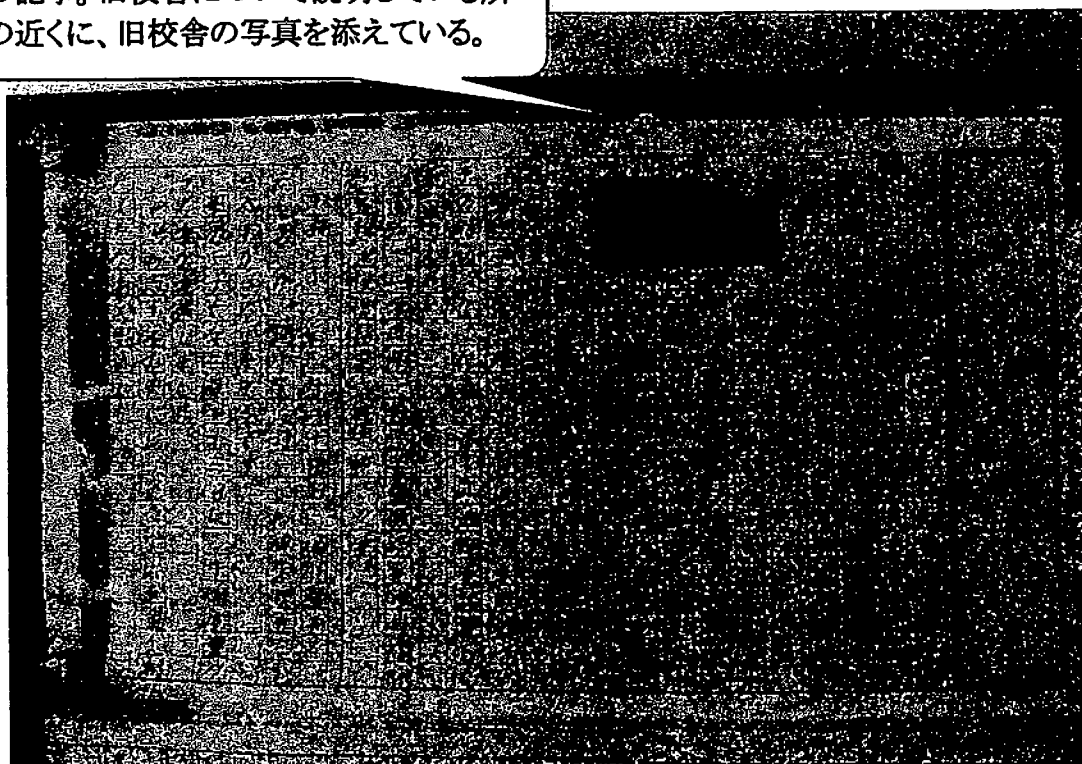
取材中も同じメモを使用していたが、取材相手が「いつ」「どこで」「だれが（何が）」  
「どうした・何をした・どうなった」に沿って話をしてくれるわけではなく、また、各項目の情報量も人によって差があった。そのため、記事を書く前にもう一度必要な情報だけを抜き出し、まとめるという作業を行った。

【絵や写真を使用した記事の例】

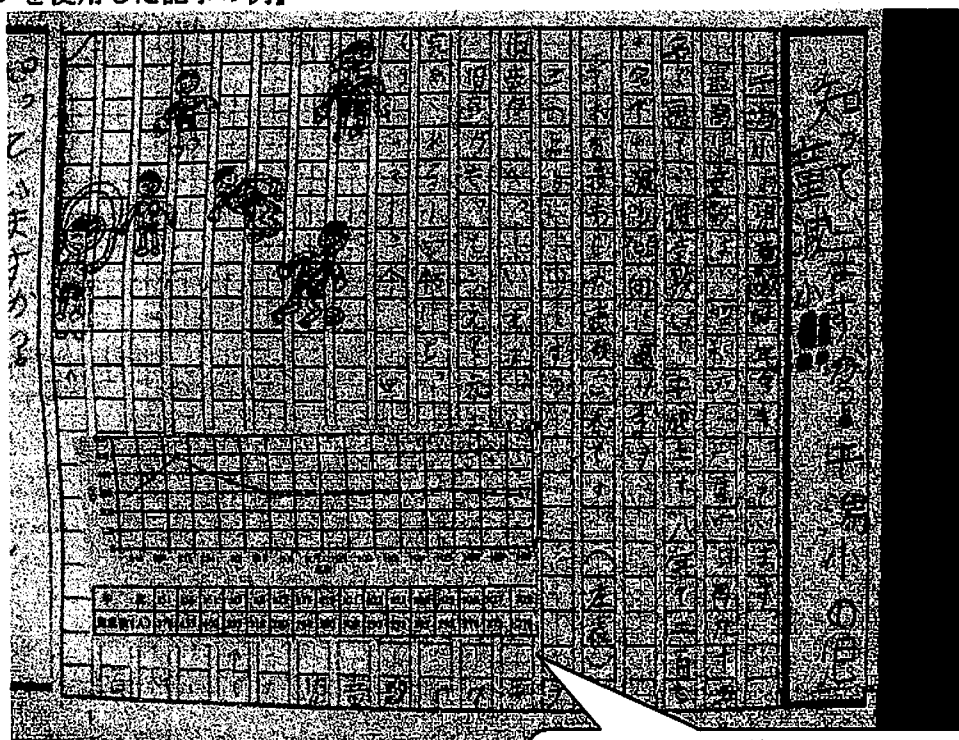


かつて校庭にあった遊具についての  
記事。当時の写真と、それで遊ぶ児童  
の様子想像図を並べている。

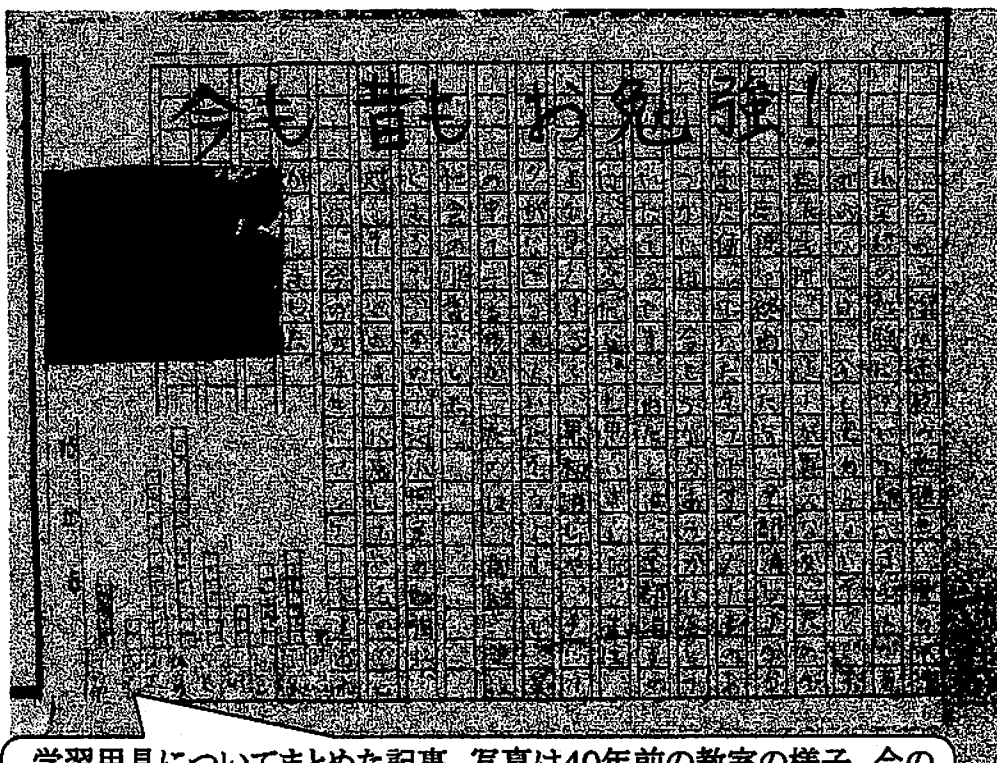
創立以来の干潟小学校の歴史について  
の記事。旧校舎について説明している所  
の近くに、旧校舎の写真添えている。



【グラフを使用した記事の例】

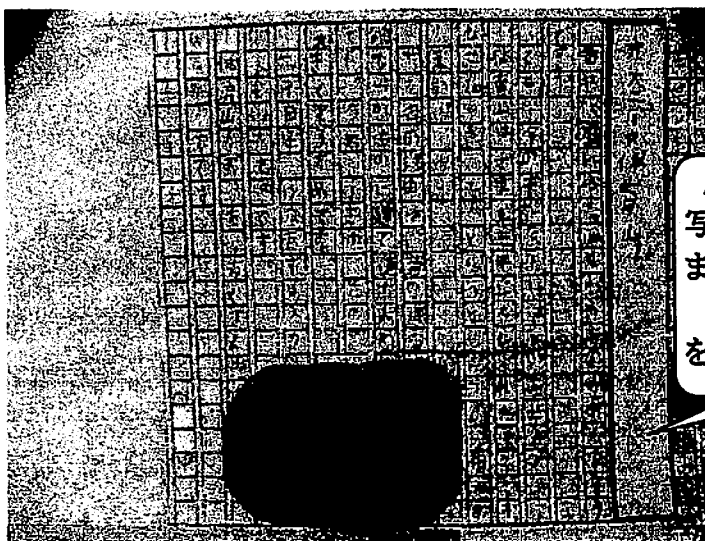


全校児童数の推移についての記事。PTA総会で配付した資料を参考にした。



学習用具についてまとめた記事。写真は40年前の教室の様子。今の6年生にアンケートに協力してもらい、人気のある教科について棒グラフでまとめた。教科ごとに色分けをして見やすくする工夫がされている。

【支援を要する児童の記事】

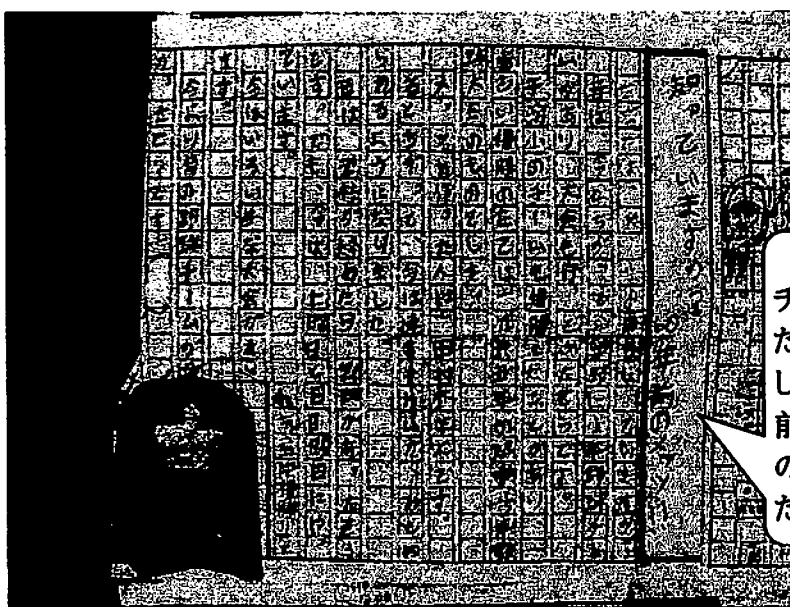
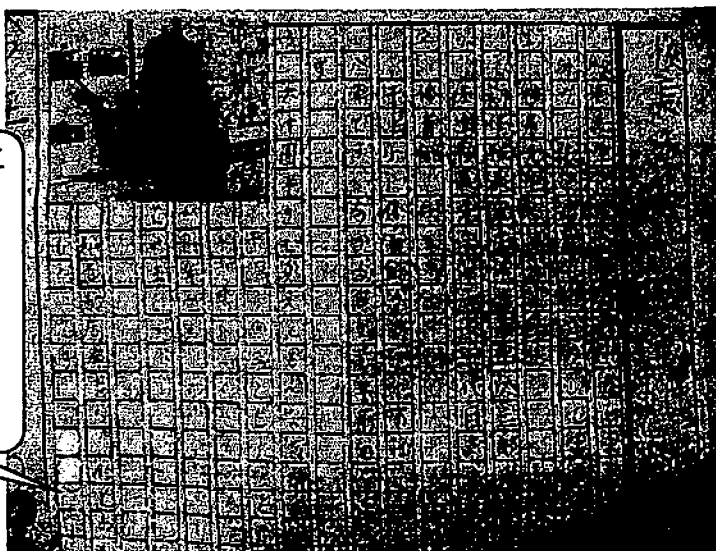


A児の記事。昔の校庭の  
写真を選び、それについて  
まとめた。

仲の良い友人にアドバイスを  
もらいながら作成した。

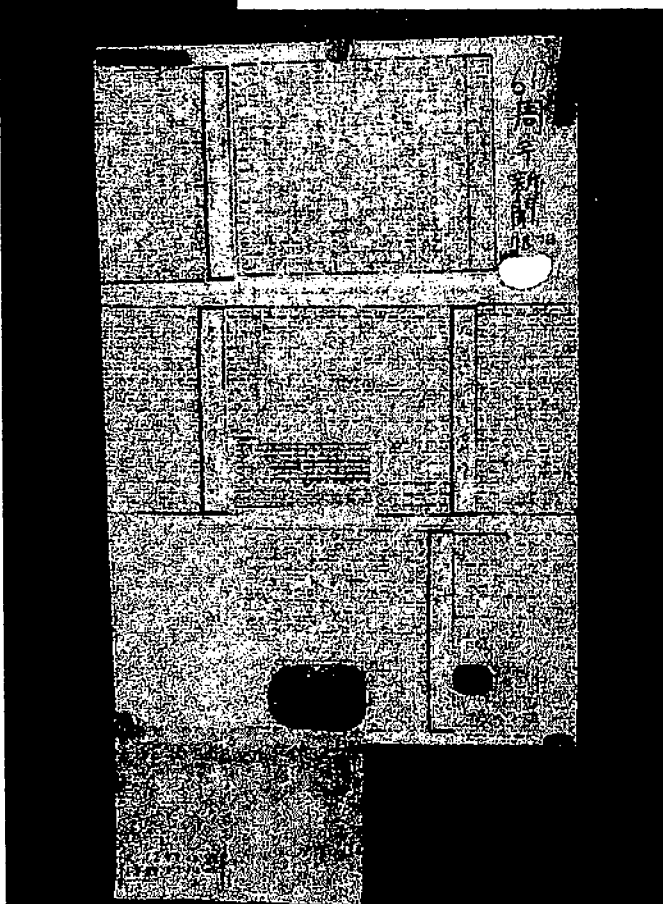
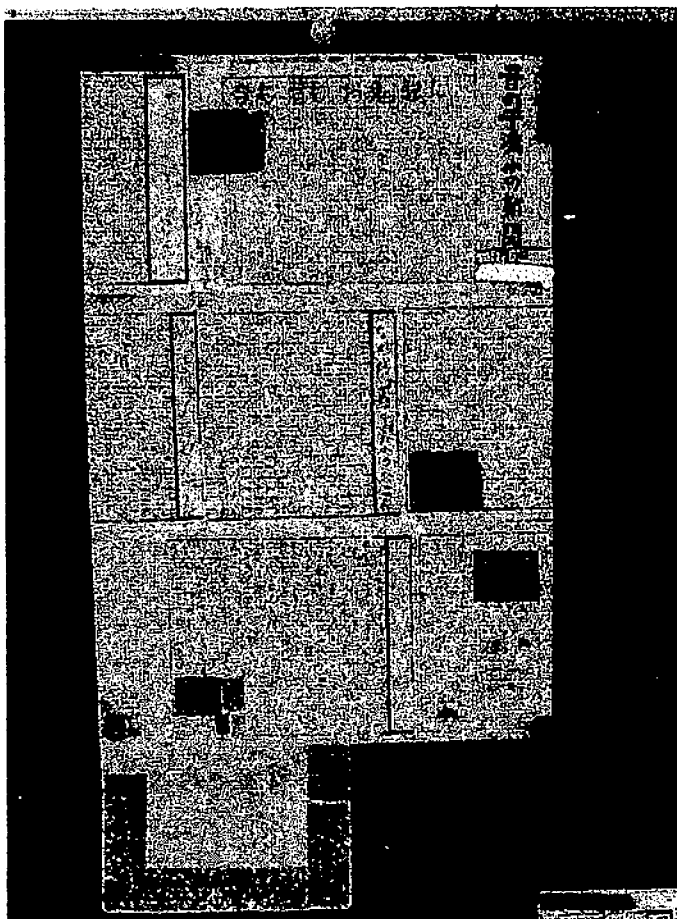
B児の記事。校長先生に  
60周年についてどう思っ  
ているかをインタビューし  
た。

教師と一緒に、3つの項  
目を立てて記事にまとめ  
た。



C児の記事。少年野球  
チームについてまとめ  
た。監督にインタビュー  
した内容を記した。60年  
前の優勝盾をみつけた  
ので、写真に撮り紹介し  
た。

【完成した新聞】



【掲示された児童の新聞】



60周年記念式典の際に、体育館の壁に掲示した。  
大勢の来校者や、他学年の児童に見てもらうことができた。